

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

	経済学研究科
<b>大項目</b>	<b>6 教育内容・方法・成果 (研究科)</b>
<b>中項目</b>	<b>6.2 教育課程・教育内容</b>
<b>小項目</b>	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
<b>要素</b>	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ (学部) コースワークとリサーチワークのバランス (院)
<b>小項目</b>	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
<b>要素</b>	学士課程教育に相応しい教育内容の提供 (学部) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容 (学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供 (院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供 (専院)

## II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 2009年4月に「本研究科運用内規」に設定し、院生には「履修心得」で公表した課程博士学位取得プロセスに基づき、博士課程後期課程修了までの5年間で博士学位を取得させるように指導体制を強化する。	→博士課程後期課程修了までの5年間で博士学位申請者数、取得者数。	B	B			
2. 受講希望院生の需要に応じて、マクロ・ミクロ計量分析の講義・演習を弾力的に「特殊講義」「特殊演習」で開講可能できるよう、大学に必要な予算措置を要求して(PC、更新も含むソフトウェア等の整備)物理的体制を確保し、後期課程へ進学する研究者養成のみならず、前期課程における高度職業人へのデータ分析の演習教育を強化する。	→出口の需要や院生の研究テーマや将来の進路希望に応じ、大学から必要な予算措置を伴う物理的体制整備が得られれば、選択必修科目化し、そのうえでのマクロ・ミクロ計量分析の講義・演習科目開講数、受講者数。	B	B			
3. 研究者養成については、大学院生の研究活動支援の強化と国内外の他大学大学院生との連携教育プログラム(他大学大学院との単位互換協定の締結や現行では授業科目化されていない「経済学ワークショップ」の授業科目化)により、実質化する。エコノミストコースについては本学他研究科との連携により、カリキュラム・プログラムを段階的に再編する。	→他大学大学院との単位互換協定の締結。「経済学ワークショップ」など「セミナー、ワークショップ」の授業単位化。	B	B			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.2.1	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 (説明) 教育課程の再編成は検討中であり、学部を含めた改革の検討は進行している。 2009年度からの導入のため、博士課程入学後5年間の学位取得した者は出ていないが、2009年度博士課程後期課程入学者2名は、博士学位取得プロセスに従い、研究、発表、論文執筆を行い、在学中の課程博士を目指している。また共同演習制度を利用して研究を行った者は前期課程生3名であり論文執筆力の強化を目指した。また、履修者がなく開講できない演習科目を、学部との合併科目化により、開講するような仕組み(教育課程の再編成)を作り、演習教育の強化をしていく予定である。また、効率的な集中講義によるものも検討している。
小項目6.2.2	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。 (説明) 博士学位取得プロセスにおいて必須である「経済学ワークショップ」を単位化(2単位)とし義務付けることを検討し、決定した。また博士課程前期課程では修士論文中間報告会の実施検討(単位化はなし)を行い、2011年度秋学期に実施できるよう準備中である。
その他	

《評価指標データ》

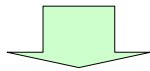
MDSプログラム履修者の全学生に占める割合  
 ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合  
 専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの開設授業科目数

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	経済学ワークショップの単位化を行い、年2回実施可能とした。
その他	



《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

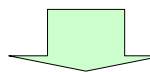
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	経済学ワークショップを博士課程後期課程1年秋学期から2年春学期開催を目標に指導をおこなう。
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	



《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★その他 (自由記述)	
----------------	--

### Ⅲ. 学内第三者評価

#### ＜評価専門委員会の評価＞

##### 【学外委員】

○カリキュラム・ポリシーの早急な策定・公表が望まれます。

##### 【学内委員】

○教育課程の編成・実施方針は明文化されてはいませんが、必要な授業科目の開設の努力は進められています。

○個別的には、博士学位取得に必須とされる「経済学ワークショップ」の単位化（2単位）や、前期課程での修士論文中間報告会（単位化はなし）の実施準備の取り組みは評価されます。ただし、全体として、学部・大学院一貫めざす新構想案の策定中のようなことから、その中の博士後期・博士前期の教育課程の位置づけ・教育内容を早期に明確化することが、期待されます。

○教育課程の再編に取り組まれています。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・教育課程は編成を検討中とのことですので、早期に具体的な改革のための方策がまとめられることが期待されます。

##### 【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

##### ○小項目6.2.1

基盤評価：「【学士】当該学部の教育における教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしていること」「【修士・博士】当該研究科等の教育におけるコースワーク、リサーチワークの位置づけを明らかにしていること」「【専門職】当該研究科等の教育における理論教育、実務教育の位置づけを明らかにしていること」

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっている」（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。）

・方針と教育課程の編成・実施実態の整合性

・学生の順次的・体系的な履修への配慮

・各学位課程の固有の課題に応える措置（例えば、学士課程においては、初年次教育・高大連携への配慮など）

### Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

なし

☆